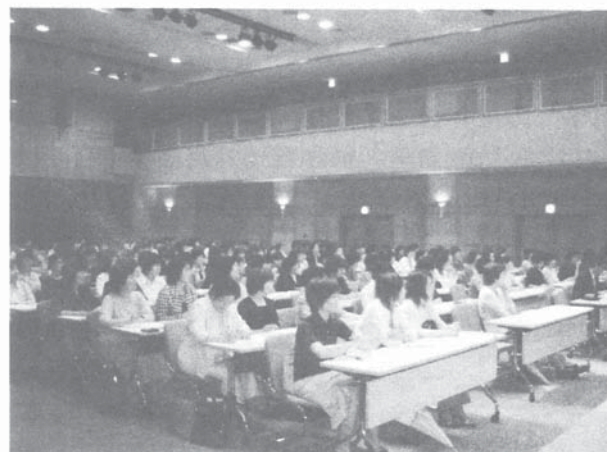
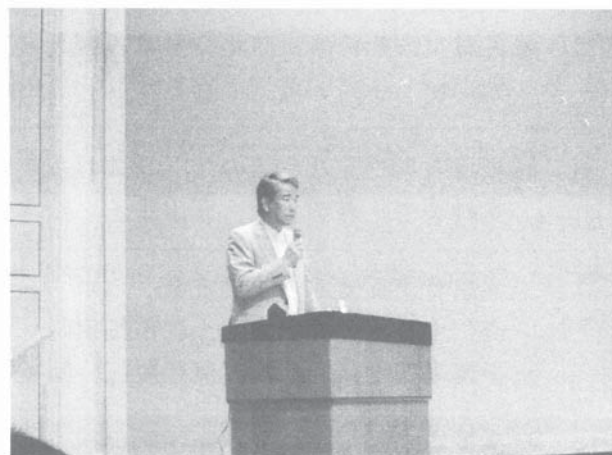


平成13年度高知女子大学看護学会「公開講座」報告

益 守 かづき*

本年度高知女子大学看護学会では、平成14年6月8日に「患者さんとのパートナーシップにおける看護職の役割」をテーマに、高知県・高知市病院組合理事である瀬戸山元一氏をお招きして講演会を開催した。土曜日の午後のひとときではあったが、医療・福祉・看護職者約200名が瀬戸山氏の講演を傾聴した。

瀬戸山氏の講演は、分かりやすいスライドとともに説得力のあるスピーチで引き込まれるものであった。医療現場が抱えている課題について医療従事者側からだけではなく受診者側からも言及された後、21世紀の医療の展望へと進められた。今後の医療の鍵となる患者さん中心の医療、すなわち患者さんが医療に参加するためには、医療従事者と患者さんがパートナーシップを形成することが重要であると強く語られた。また、看護職者に対しては、専門職者としての責任を担い、現在の医療の中で看護職者としての役割を提案していくことを提唱された。看護職者として患者さんや他の医療従事者といかに向き合い協働していくことが必要か、またどのように実践に結び付けていったらいいのかを考えさせられた講演であった。



*高知女子大学看護学会企画委員